

関連項目：教育活動プラン①、④

気持ちよい挨拶を通して、人とつながる力を育成する

目的

本校児童には、時間や場所、相手が変わると挨拶が十分できないという実態がありました。そこで、「いつでも・どこでも・誰にでも」を合言葉に、挨拶を通して人間関係調整力を育てることにしました。

内容

● 場に応じた挨拶の共通理解・自己評価

生活上の多様な場での挨拶の仕方について、生徒指導担当が中心となって、具体的に指導し共通理解を図りました。そして、毎月自己評価し、伸びが実感できるようにすることで、意識を継続させました。

- ① 朝、家で
- ② 登校中に
- ③ 学校に着いて
- ④ 教室に入る時に
- ⑤ 教室で居る時に



目標を掲示・評価

- ① 授業の始まるの時
- ② 授業の終わりの時
- ③ 廊下ですれ違う時
- ④ 全校練習の時
- ⑤ 呼びかけられた時

● 個人で励み、学級集団で励まし・競い合う — 自己宣言・挨拶バッチ・ペナント —

挨拶合格者は自己宣言をして、胸にバッジを付けるようにしました。また、学級全員達成の際には、学級旗にペナント（右端写真）を付け、集団で喜びと高まりを味わわせました。自己宣言をしたいという目的意識とともに、自己責任感や連帯感が生まれ、挨拶に対する意識化や自覚化につながりました。



● 目標達成の記念日づくり—「笑顔の日」—

「全校生自己宣言達成記念」を全校で喜び、より多くの友達と触れ合えるように、毎週水曜日の昼休みを延長した「笑顔の日」を設定しました。自分たちの頑張りで手に入れた価値ある日として、この日を楽しみにしている児童が多く、教師も児童との触れ合いを深めるよい時間となっています。



目標達成で笑顔あふれる校庭



「笑顔の日」…毎週水曜日;50分間の長い昼休み

先生チームとバレー対決!

● 感謝する心—「1秒の言葉」「1秒の行動」—

挨拶する心を、感謝する心や相手に気持ちが伝わった時の心地よさにつなげるために、「1秒の言葉」「1秒の行動」に取り組みました。相手を意識した言動が徐々にできるようになり、友達や自分のよさの発見にもつながってきました。



「どうぞ」「ありがとう」が溢れる学級作り



心をそろえるトイレのスリッパ!!

成果

挨拶に対する恥ずかしさが薄れ、声をかけ合う場面が確実に増えてきました。そして、いつでも・誰にでも挨拶ができる子の割合が「4月（約51%）→2月（約86%）」と好転し、挨拶なしを気持ち悪く感じる感覚が身に付いてきました。